牧師所感：　　神学大学の学友 矢沢俊彦牧師

筆者は 1967 年 東京国立音楽大学から、神様の強制により、東京神学大学へ 編入学した。

時は 春休みが終わり、学期が始まっていた。手続上 少し遅れて登校した時、今はご召天の、左近 淑先生に導かれて 3 年のクラスに入室した。その時 凡そ 20 名ばかりの学友がパチパチと手をたたいて、筆者を歓迎してくれた。

その中に 矢沢 俊彦と名乗る学生がいた。その後 彼が 東京神学大学（東神大）の隣の、ICU（東京基督教大学）を卒業して、更に 東神大で学んでいたことを知った。

さて、私たちクラスメートは、共に 大学院に進み、1971 年に修士課程を卒業した。卒業生の皆は、おのおの 道に従って 進んで行った。

ところで 筆者は 1974 年に牧師になり、長い人生を牧師として、在日大韓基督教会に於いて奉仕し、定年（70 才）になり、隠退した。

ところが、まだ余力があったので、長い間の祈りが叶えられ、千葉県の八街市勢田に、開拓教会を建立した。

だが 東神大卒業後、冒頭の 矢沢 俊彦牧師が、何処で牧会をなさっておられるのか 知る由もなかった。だが 東神大の先輩の 福島県石川町 双里居住の櫻井 淳司牧師のご紹介で、矢沢牧師が、鶴岡の荘内教会の牧師でいらっしゃることを知った。

さて、矢沢牧師は 1977 年より、鶴岡の荘内教会 牧師として赴任し、今日に至っておられることを知ることになった。

荘内教会は 明治から昭和初期までの、膨大な宣教物語を編纂。又 信仰エッセイ等、膨大な数の著作を 世に残している。今では 視力が衰えておられるそうであるが、ここにエッセイの一部をご紹介する。

73．波を恐れず水の上を歩け
― ただ主を見つめ歩むこと ―

「・・・ペテロは舟からおり、水の上を歩いてイエスのところへ行った。しかし風を見て恐ろしくなり、おぼれかけたので、彼は叫んで『主よ、お助け下さい』と言った・・・」。（マタイ福音書第１４章２２―２３節）

嵐の海を歩いてやってくるイエス様。そして水の上を歩いて彼に近づこうとするペテロ。何という空想話。とても信じられないと誰しも思う物語です。これをそのまま科学的物理学的現象として見るならば、その通りでしょう。しかしこれをいわゆる霊的世界（化学を含むこの世界全体を貫く現実）から見る時、私たちはこの世を統べる神さまの力に触れ、それまでの世界観人生観がひっくり返ることになるのです。科学万能主義が見事に打ち破られる奇跡です。

事実今の私達の生活は、荒れ狂う海の上を歩くことが宿命づけられてはいないでしょうか。騒ぎたつ海、地の底が震え動く大地、鳴動する世界にあって、私達は踏みしめるべき安全な場所は何処にも見いだせません。そこでどうしても大波逆巻く波間を歩く他はないのです。しかも戦争や飢餓、諸々の災いや天変地異が吹き荒れているのです。ペテロもそういう風や波を見た途端、ズブズブと溺れかけたのです。唯一の道はイエス様のお顔を懸命に見続けること。すると不思議に海の上を歩けるのです。これは真剣に信じられねばなりません。

以上 荘内教会に栄光あれ！！